スピリチュアリティが学習意欲に及ぼす影響

○村上祐介¹・串崎真志²(¹鳴門教育大学予防教育科学センター・²関西大学文学部心理学専修)

キーワード: 探究心, 大きな問い, 高等教育

The influence of spirituality on learning motivation

Yusuke MURAKAMI¹ and Masashi KUSHIZAKI²(¹Center for the Science of Prevention Education, Naruto University of Education, ²Faculty of Letters, Kansai Univ.)

Key Words: inquiry-mind, big question, higher education

目 的

生きる意味に関する問いや宗教的問い, 形而上学的問いは, スピリチュアリティ教育において「大きな問い (big question)」として議論されている (Palmer, 1998/1999)。Astin et al. (2011) では, 類似の概念である「スピリチュアルな探究」尺度の得点上昇が, 知的な自尊心の向上に影響することが明らかになっており, スピリチュアルな探究と学業への積極的な関与との関連性が示唆されている。

また, 大きな問いを思慮することにより, 我々の知識や野心, 社会的仕組みなどにおいて不足しているものが明らかになるという主張がある (Parks, 2011)。これに従えば, 大きな問いにより生じた不足を埋め合わせようと, 人, 情報, 機会などの様々なリソースを, 従来の自分の枠組みを超えて探索したり積極的に獲得しようとしたりする態度である探究心が賦活することがあるのではないだろうか。それによって, 大学での授業を大きな問いについて思慮する機会の一つとして捉えるなど, 大学での学びに対するより積極的な姿勢が涵養されることが予測される。

そこで本研究では「自己, 世界, 超越的存在の在り方や, 生の意味, 死や愛, 価値など人生の根本的な問題について考える能力」とスピリチュアリティを定義し, スピリチュアリティと学習意欲の媒介変数として, 探究心およびその上位概念である批判的思考態度に着目する。そして, 「スピリチュアリティは学習意欲に正の影響を及ぼす (仮説 1)», 「スピリチュアリティは批判的思考態度を媒介して学習意欲に正の影響を及ぼす (仮説 2)」という 2 つの仮説に基づく仮説モデルを検証することを目的とする。

方 法

対象者 関西圏の大学に所属する大学生 310 名を分析対象とした (有効回答率 85.64%; 男性 121 名, 女性 183 名, 不明 6 名)。学年の内訳は, 1 年生 205 名, 2 年生 60 名, 3 年生 32 名, 4 年生 6 名, 5 年生 1 名, 不明 6 名であった。

調査方法 心理学関連の講義内で授業の一環として調査を実施し, 研究使用の許可が得られた対象者から回収を行った。

質問紙の構成 (1) Big Question 尺度 (BQS; 村上, 2012): 「人生の意味の希求」および「価値の探究」に関する 11 項目, 6 件法; (2) 大学生の学習意欲尺度 (加曾利, 2008): 「自己向上志向」および「授業に対する積極性」に関する 10 項目, 7 件法; (3) 批判的思考態度尺度 (平山・楠見, 2004): 33 項目, 5 件法; (4) 宗教形態に関する質問。(1) と (2) で使用した質問項目は, 予備調査の結果をもとに選定した。

結 果

探索的因子分析および各下位尺度間の相関分析の結果をもとに, 構造方程式モデリングによる仮説モデルの検証を行った (Amos 20 を使用)。修正指数を参考に複数のモデルの修正

を試み, 最終的に Figure 1 に示すモデルを採用した。分析の結果, BQS の「生きるうえでの価値の希求」は, 学習への積極性に正の影響 ($.21, p < .01$) を及ぼしていた。また, 「生きるうえでの価値の希求」は, 批判的思考態度の「探究心」, 「証拠の重視」, 「客観性」に正の影響 ($.30, p < .000; .30, p < .000; .20, p < .01$) を及ぼし, 探究心と証拠の重視のみ, 学習への積極性に正の影響を及ぼしていた ($.52, p < .000; .14, p < .05$)。

Figure 1 仮説モデルの検証結果

考 察

本研究の結果から仮説 1 は支持され, 仮説 2 は一部支持された。すなわち, 「本当の幸福とは何か」, 「生きることや人生に意味や目的はあるのか」といったことについて考えることで, 「大学で学ぶことで視野を広げたい」など授業に対する積極性が高まり, そうした傾向は, 外部の環境に学習資源を求める態度や, 問いに対する自らの考えが妥当なものかどうか証拠になるものを探そうとする姿勢の高まりを媒介することが示唆された。Steger et al. (2008) の研究では, 人生の意味の探究と, 好奇心が非常に弱いながらも正の相関を示し, ドグマ主義とは負の相関を示していた。このことは, 大きな問いを思慮することが, 新しい物事を探そうとする心性や, 偏った見方をよしとしない認知的特徴と関連することを示唆しているが, 本研究の知見はこれを一部支持するものであったと言える。

その一方で, Kashdan & Steger (2007) による日誌法を用いた調査では, 日常的な人生の意味の希求は日常的好奇心を予測しないことが明らかになっており, 今後は, 実験的手法を用い, 問いについて日常的に思慮することが, 学習意欲や探究心に及ぼす影響をより詳細に検討することが課題である。

引用文献

Astin, A., Astin, H., & Lindholm, J. (2011). *Cultivating the spirit: How college can enhance students' inner lives*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.